

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会

理事 倉林 喜一郎



【資源リサイクル協連の沿革】

千葉県資源リサイクル事業（協連）は平成5年11月に、県内市町村にある12の資源組合が団結して、再資源化リサイクルの受皿体制として、我が国としてはいち早く連合会体制を確立し発足した。当時連合会の設立に参画したのが倉林喜一郎氏で、初代会長になった。また、倉林さんはこれと前後して、県内の青年部の結成にも尽力し、そのリーダーシップを買われて青年部長にもなっている。

【松戸市再生資源事業（協）の概要と倉林さんの横顔】

松戸市再生資源事業（協）は長年千葉県再生資源商業（協）の松戸支部として活動してきたが、松戸市の人口急増に伴い、ゴミの増量に処理施設が追いつかず、市当局がゴミ減量化対策としてリサイクル再資源化を進めるために、町会の集団回収事業や

市営のリサイクル処理場の開設をするのに併せて昭和53年4月に法人化された。以来松戸市から有価物の選別業務を受託。昭和63年には県の制度融資を受けて松飛台工業団地内に独立事務所を構えた。

倉林さんは組合の理事、副理事長を歴任し、平成3年に理事長に就任すると、共同事業の効率化を進め、古紙のプレス減量設備を導入。平成6年には松戸市から故紙処理業務の受注を成約させた。

こうした功績は県外からも高く評価され、平成14年から今年まで日本再生資源事業協同組合連合会の会長を務め、業界の自主認定制度を設けて「リサイクル証明書」の普及など資



岩間事務局長（左）と倉林理事長（右）

■千葉県資源リサイクル事業（協連）

所在地	千葉市中央区富士見2-22-6 富士ビル5F-A
代表者	大塚 勝彦
会員数	15名（出資金290万円）

■松戸市再生資源事業（協）

所在地	松戸市松飛台286-13
代表者	倉林喜一郎
会員数	13名（出資金3600万円）

源循環型社会の確立に努力してきた。

倉林さんは昭和15年東京の深川生まれの神田育ち。お父さんは戦死され、お母さんの女手一つで育てられた。大学の法学部を卒業して、不動産会社で契約事務を担当するサラリーマンであったが、どうも宮使いが性に合わず、一念発起して当時景気の良かった紙問屋に見習奉公の後独立。その当時はまだ地球環境問題とかりサイクルという言葉もなく、「もっぱら再生利用の目的となる古紙、屑鉄、空き瓶、古繊維」を扱う再資源業に対する偏見も残っていたのか、親戚の人に「お袋さんもおまをクズヤにするために苦労して大学までやったのではない」と云われたこともあったそう。昭和52年にトラック1台で松戸に事業所を構えてスタート。現在は車10台の体制と、順調に業績を伸ばしてきた。

趣味などをお伺いしたところ、学

生時代は山歩きなどもしたが、今は何しろ、毎日毎日が仕事で、町会との関係で、従業員が出られないときは日曜出勤もよくあるそうで、たまに出張で海外や地方に出るときぐらいいが息抜きになるのかな、ということでした。

今後の抱負は、千葉、関東、日本の各連合会の会長を後進に譲ったので、体力に余裕のあるうちに、地元松戸のためにもう一踏ん張りしたいとのこと。いつも仕事のこと、業界のことが頭から離れない倉林さん。このような仕事一途、粉骨碎身の貢献が認められ、これまでに千葉県知事や中小企業庁長官等、多くの表彰を受けている。

ご家族は娘さんの1人は既に嫁いで、現在は奥様と、銀行に勤めているお嬢様、後継者のご長男の4人で松戸市に在住。



▲組合事務所



活路開拓調査事業で福島県を視察（平成11年）▶